

鳥川遺跡群 発掘調査報告書

1993

山形県
山形県教育委員会

からす がわ

鳥川遺跡群

発掘調査報告書

平成5年3月

山形県
山形県教育委員会

序

本書は、平成4年度に山形県教育委員会が発掘調査を実施した鳥川遺跡群の調査成果をまとめたものです。

鳥川遺跡群は山形県の南部に位置する米沢市にあります。米沢市管内は、これまで数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が発見され、調査が行われてきました。調査は、鳥川2～5遺跡について行い、山間の段丘面に立地する縄文時代の集落跡や近世墳と推定される墓壙群が確認されました。

埋蔵文化財は私たちの祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な国民的財産であり、一度壊してしまえば二度と元に戻らないものです。調査により明らかにされた遺跡は過去の生活の有様を彷彿と再現してくれるものです。祖先の歴史を学ぶとともに愛護し子孫へと保存し伝えていくことが、現代に生きる私たちに課せられた重要な責務といえるでしょう。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境作りという立場から、今後とも県民福祉の向上を目的とした地域社会の整備と調整をはかりながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存であります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成5年3月

山形県教育委員会教育長 木場清耕

例　　言

- 1 本書は山形県土木部の委託を受けて、山形県教育委員会が平成4年度に実施した「綱木川ダム建設事業」に係る、「烏川遺跡群——烏川2～5遺跡——」の緊急発掘調査報告書である。
- 2 遺跡は、山形県米沢市大字篠沢・烏川北・古墳・糸畑向に所在する。
- 3 調査期間は、平成4年4月13日から平成4年5月29日までの、延べ29日間である。
- 4 調査体制
調査主体 山形県教育委員会
調査担当 山形県埋蔵文化財緊急調査団
調査担当者 事務局長補佐 佐々木洋治
　　主任調査員 名和達朗
　　主任調査員 黒坂雅人
事務局 事務局長 深瀬征二
　　事務局長補佐 鈴木常夫
　　主任調査員 野尻侃
　　主任事務員 永井健郎
事務員 渋江正義・松本明美・野本久実子・大内千賀子
- 5 調査においては、米沢市教育委員会・県土木部河川課・綱木川ダム建設事務所・東南置賜教育事務所など関係機関、並びに地元米沢市の方々の御協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。
- 6 本書の作成は、名和達朗・黒坂雅人が担当した。編集は、安部実と担当者が行い、全体について佐々木洋治が総括した。
- 7 石器の写真実測は、株式会社シン技術コンサルに委託した。

凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物他の記号は下記のとおりである。
SK：土壤 SP：ピット SX：性格不明の落ち込み SM：石組遺構
T：トレンチ RP：登録土器
- 2 調査概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
- 3 各挿図の縮尺はスケール上に明記した。
- 4 遺構の計測値は断面図に長径×短径×確認面からの深さ(cm)、復元土器は実測図下に口径×底径×器高(mm)、石器は同じく最大長×最大幅(mm)・重量(g)を記載した。なお()内の数値は推定値・残存値を表す。

目 次

第Ⅰ章 調査に至る経過.....	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境.....	2
第Ⅲ章 調査の概要.....	2
第Ⅳ章 遺構と遺物	
1 烏川2遺跡.....	4
2 烏川3遺跡.....	6
3 烏川4遺跡.....	7
4 烏川5遺跡.....	10
第V章 まとめ.....	14

挿 図

第1図 遺跡位置図.....	1
第2図 調査概要図.....	3
第3図 烏川2遺跡出土遺物.....	4
第4図 烏川2遺跡検出遺構.....	5
第5図 烏川3遺跡検出遺構・出土遺物.....	6
第6図 烏川4遺跡遺構配置図.....	7
第7図 烏川4遺跡検出遺構.....	8
第8図 烏川4遺跡出土遺物.....	9
第9図 烏川5遺跡遺構配置図.....	10
第10図 烏川5遺跡検出遺構.....	11
第11図 烏川5遺跡出土縄文土器.....	12
第12図 烏川5遺跡出土縄文土器・土製品・石器.....	13

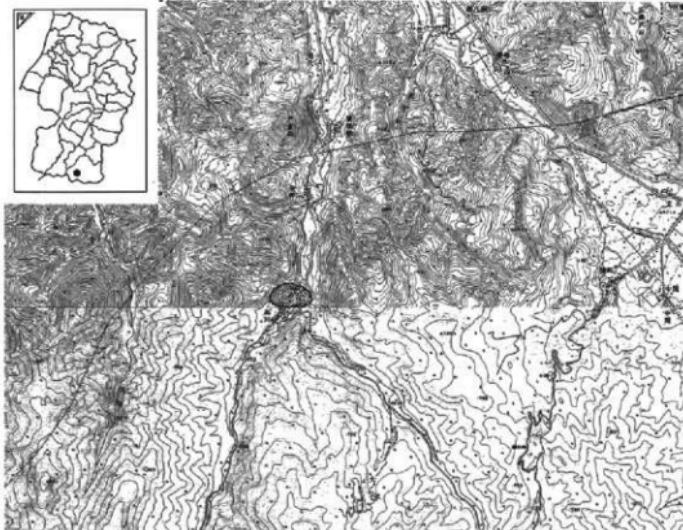
図 版

- 図版1 烏川遺跡群全景
図版2 烏川2遺跡 遺跡近景, SK6, SK3, T1, 調査区完掘状況, 縄文土器他
図版3 烏川3遺跡 遺跡近景, SX7, SK6, 調査区東半部完掘状況, 出土遺物
図版4 烏川4遺跡 遺跡近景, SK19, SK11, SK12・SK13他
図版5 烏川4遺跡 縄文土器3, 縄文土器・石器
図版6 烏川5遺跡 遺跡近景, 東西トレント土層断面, SX2・SK3, SM5他
図版7 烏川5遺跡 縄文土器3, 縄文土器4, 縄文土器・土製品
図版8 烏川5遺跡 剥片石器・磨製石斧, 織石器・石製品

第Ⅰ章 調査に至る経過

山形県内の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は、「山形県遺跡地図」（昭和53年刊行 山形県教委）及び各年度毎の分布調査報告書に登録されているが、各市町村単位でも行われ報告書にまとめられている。米沢市管内でも、市教委により遺跡詳細分布調査が進められ、これまで新規発見のものも含め、各時代にわたり数多くの遺跡が登録されている。また、発掘調査についても、多くの報告がなされているところである。

平成2年度から米沢市街の南南西約10kmの鳥川地区に、最上川水系鬼面川総合開発計画の一環として多目的ダム「網木川ダム」の建設が着手することになった。大規模な開発事業区域であることと、「米沢市遺跡地図」（昭和61年刊行 米沢市教委）では、この区域内は鳥川遺跡（昭和60年度登録）の所在地であることから、県教委ではその周辺一体について平成元年11月15日に表面踏査による現地確認調査を行い、さらに平成2年11月5日～16日に遺跡及び地形観察等による遺跡可能性地について試掘調査を実施した。それらの遺跡詳細分布調査の結果、事業地区内に点在する位置で5ヵ所の遺物検出地点が確認され、鳥川1～5遺跡と命名された。次に、各遺跡について関係機関による協議を行った結果、鳥川2～5遺跡について平成4年度緊急発掘調査を行い、遺跡の記録保存を図ることになったものである。



第1図 遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

第II章 遺跡の立地と環境

吾妻山系の分水嶺からはった鳥川と綱木川は、最初南北に並行して流れ、鳥川地区で合流して綱木川にまとまりやがて大樽川と合流する。この流域は、吾妻山系に入る谷あいがつづき、その山あいを南北に走る一般県道綱木・西米沢停車場線沿いに、北から糸畔・鳥川・綱木の集落が位置する。集落を過ぎさらに山を登り進むと、やがて桧原峠に至り福島県耶麻郡北塩原村へと入る。調査時点では、鳥川地区はダム建設に伴い集落が移転した後で、人々の土台の跡や水田等の耕作地の跡が残る静かな景観であった。

鳥川遺跡群は、鳥川と綱木川の合流点付近両岸の高低差のある河岸段丘に、点々と地形的にも独立して分布する。面積も、10~20m四方の小規模な範囲である。

鳥川2遺跡は、県道西側の位置で、1遺跡同様鳥川左岸の高位段丘上に立地する。標高472mを測り、遺跡群の中でも高所にある。段丘面は、東側へ延びる尾根筋の平場という景観である。地目は、山林である。

鳥川3遺跡は、2遺跡東側直下の中位段丘上に立地する。遺跡の北側は沢が東西に入り、東側は県道の法面である。標高は、450mを測る。地目は、畑地である。

鳥川4遺跡は、鳥川左岸で県道から東側に張り出す低位段丘先端部に立地する。標高は、442mを測る。地目は、水田である。

鳥川5遺跡は、鳥川と綱木川の合流点右岸の低位段丘上で通称「丸山」と呼ぶ塚様の高まりの地形に立地する。標高は、432mを測る。地目は、山林である。

第III章 調査の概要

各遺跡については、立地場所の地形や水田畦畔方向等に合わせ調査区の設定を行い、全体共通のグリッドは組まなかった。それぞれの位置関係については、工事用座標杭や標高点及び耕地境界杭の基準によるものである。

調査は、重機による表土の粗掘りを行い、遺構確認面である地山上面まで掘り下げた。遺構・遺物は、各遺跡とも土壤・ビットの散発的な検出状況で、明瞭な包含層も確認できなかった。

鳥川2遺跡は、北側傾斜面の変換点から下にかけての地山上面にフレイクの出土がみとめられた。その調査区壁際の鞍部は、赤色土が細長く確認できた。

鳥川3遺跡は、風化礫層まで削平を受け、主に調査区東側から南側に土壤・ビット群がみとめられた。

鳥川4・5遺跡は、比較的の遺構・遺物が多く、4遺跡は段丘縁辺部、5遺跡は調査区東から南側が主な確認範囲である。両遺跡の調査区西側は、礫群域である。



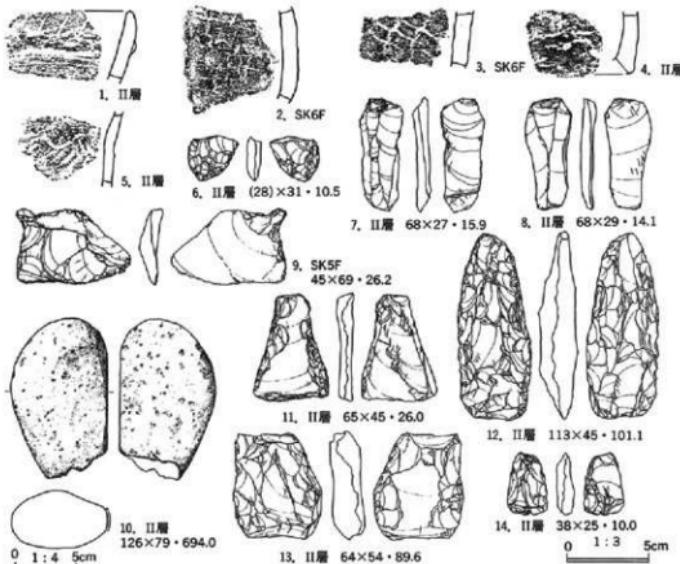
第2図 調査概要図

第IV章 遺構と遺物

1 烏川2遺跡

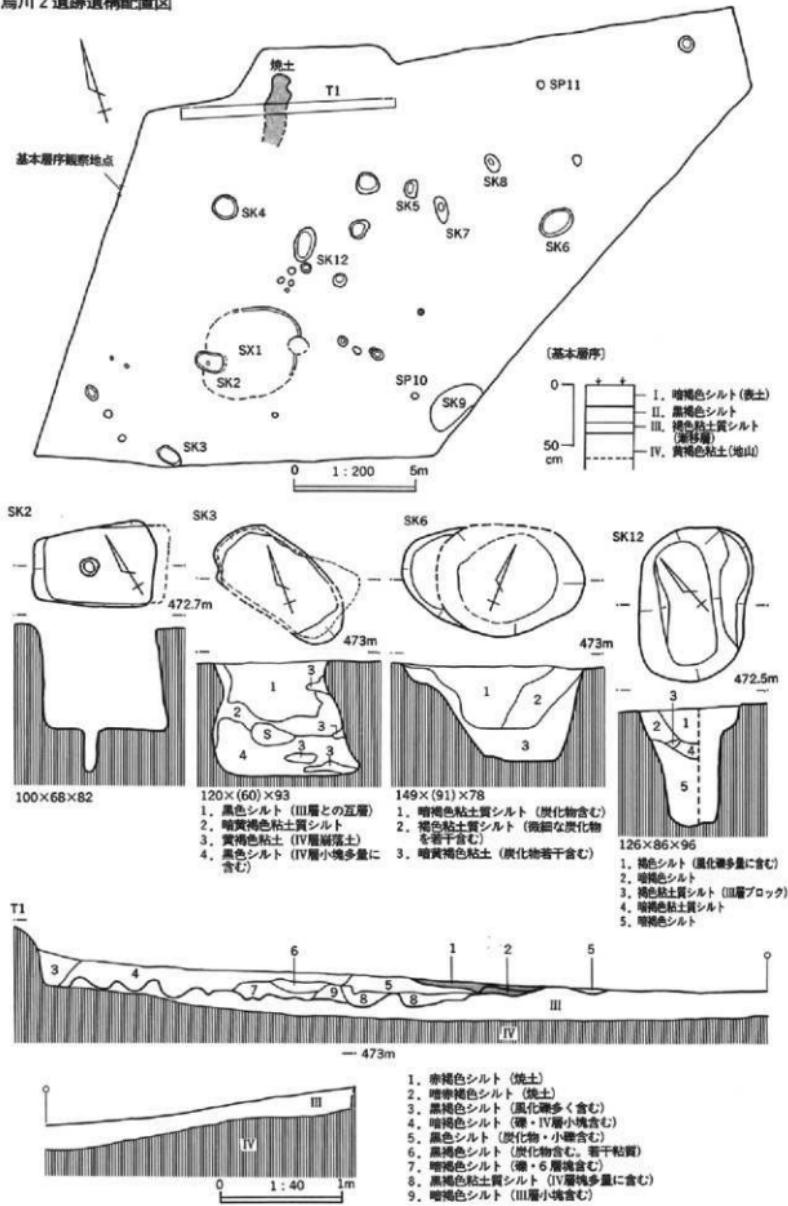
調査区は、東西方向の丘陵尾根で、遺構・遺物は、やや平坦な調査区中央部に分布する。検出遺構（第4図、図版2）は、地山上面が検出面で、土壌9基、ビット20基、SX1基である。北側の傾斜地は、黒色土が堆積する南北方向の凹地に、焼土と考えられる赤色土の広がりが確認された。赤色土内には、炭化物がほとんどみとめられず、トレンチで土層を調査したが火熱を受けたものかどうか判断つかなかった。その中からは、フレイクが面削りの段階から出土した。土壌は、平面形が長方形や橢円形で、底面に小ビットをもつもの（SK2）、フラスコ状（SK3）、断面形態Tビット状（SK12）、直線的（SK6）がある。遺構内出土遺物は少なく、SK5・6出土の数点のみである。SK9は、不整橢円形で覆土に根が多量に入り、拔根跡の可能性がある。ビットは、住居跡や建物跡を想定できる配例は確認できなかった。SX1は、住居跡を検討したが、壁面の明瞭な立ち上がり、ビット、炉跡等も検出できず、把握はできなかった。

出土遺物（第3図・図版2）は、整理箱1箱の出土量で、すべて破片である。第3図1は、口縁部下に横位の隆起線を貼付し、間に斜位の沈線を入れ、下部は隆起線に平行して半截竹管による沈線を巡らす。2～4は体部で、S字状捺糸文が施される。5は、繩文地



第3図 烏川2遺跡出土遺物

鳥川2遺跡遺構配置図



第4図 鳥川2遺跡検出遺構

文に波状沈線を浅く施す。石器は、石匙、範状石器、搔器、削器、石槍、縦長剣片、石核、磨石、石皿の器種である。なお、IV層地山面削りの際、チップの出土が点々とみとめられた。層位確認していないが、7・8の縦長剣片は、旧石器時代の所産が推定される。

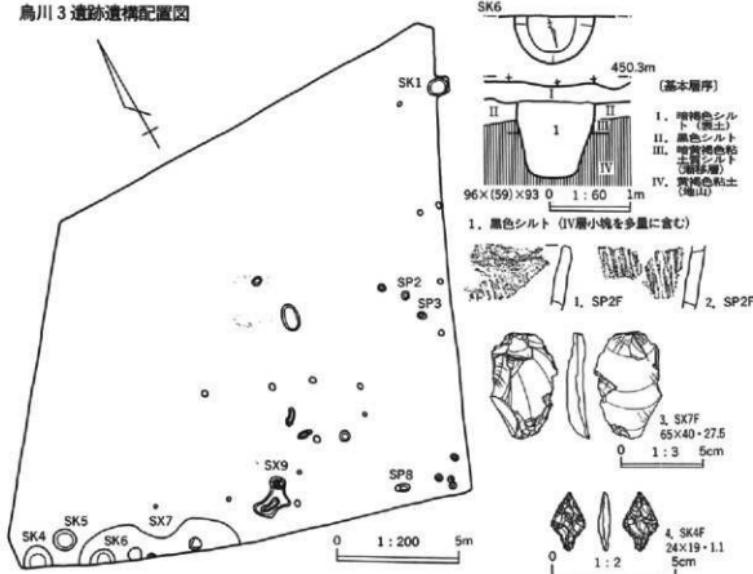
2 烏川3遺跡

調査区は、南側方向の緩やかな傾斜面で、中央南側から壁際に遺構が分布する。

検出遺構（第5図、図版3）は、土壌5基、ピット30基、SX2基で、確認面は、地山面である。SK1は、調査区北東、SK4~6は、調査区南西壁際に分布する。SK1は、平面形円形・直径70cm・深さ10cmの掘り込みで、覆土は炭化物を多量に含み地山粒子の混じる黒褐色土である。SK4~6は、平面形円形・直径90~110cm・深さ63~71cmの直線的な掘り込みである。覆土は、1層で地山土が斑状に混じり軟らかい。覆土下部からは、古銭が検出され、SK4・6では、骨片と煙管が出土した。SK4では、棺桶埋葬と考えられる側板と底板の痕跡も確認された。壁の土層断面の調査では、掘り込み面の上部は1層の耕作等による搅乱を受けている。

出土遺物（第5図・図版3）は、整理箱1箱の出土量である。SP2出土の第5図1・2は、撚糸地文の深鉢で同一個体と考えられる。3は、SK4覆土出土の石鏃で、小形三角形・有茎のものである。4は、剣片に調整を加えたものである。煙管は、銅製と考えられる雁首と吸い口2点ずつ出土、羅字は痕跡を留めるのみである。古銭は、寛永通寶（SK4+5）で、枚数は不明であるが出土状況から六道錢と考えられる。

烏川3遺跡遺構配置図



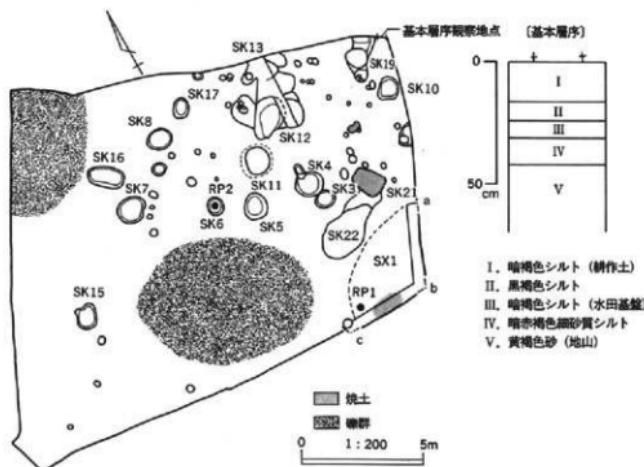
第5図 烏川3遺跡検出遺構・出土遺物

3 烏川4遺跡

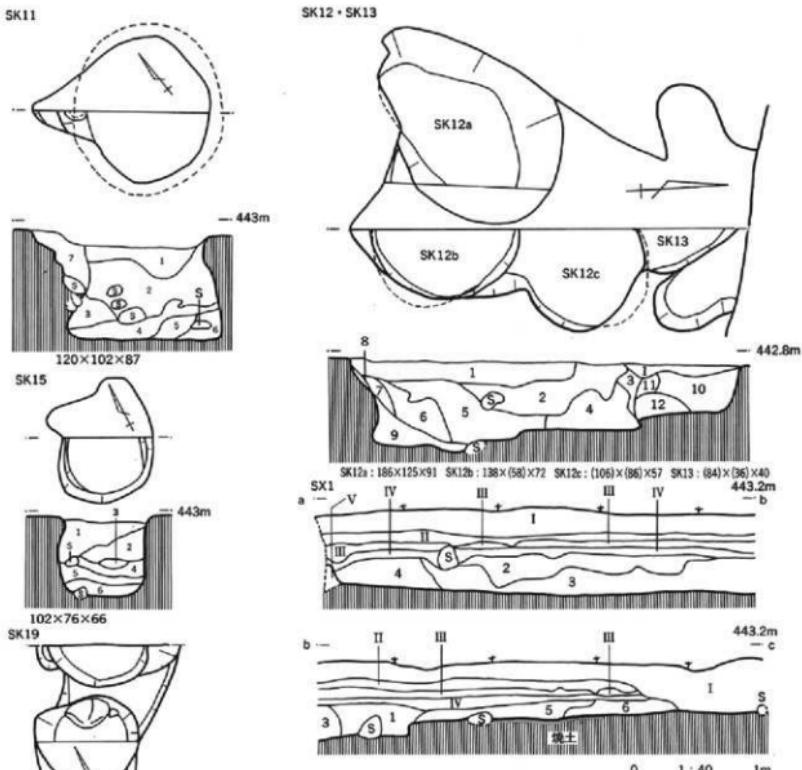
調査区の東側は地山面の範囲で、遺構・遺物も概して調査区中央東側の段丘縁辺寄りに分布する。調査区北西から中央は、地山面に礫群が露頭している部分である。

検出遺構（第6・7図、図版4）は、地山上面の精査で確認できた土壌20基、ピット48基、SX1基である。住居跡や建物跡等は確認できなかった。土壌は、円形ないし不整梢円形で、SK11・12・19はフラスコ状を呈する。また、SK21覆土及びSX1底面からは、焼土がみとめられた。SX1は、土層断面に壁の立ち上がりも確認でき、炉跡及び壁面の想定から住居跡を検討したが平面プランや柱穴の把握まではできなかった。

出土遺物（第8図、図版4・5）は、整理箱5箱の数量である。土器は、文様の特徴により縄文時代中期末、後期、晩期の群に分けられる。中期末、第8図（4・5～10）は、沈線や隆起線による無文帯の区画に充填縄文を施すものである。4は、口縁部が体部からくの字形に内弯する器形で、渦巻き状に隆起する無文帯及び間の区画に充填縄文を施す。5は、やや膨らみを呈する体部から波状口縁部が外反する器形で、頸部と体部下半の無文帯と体部の縄文を隆起線で区画する。頸部は、波頂部から弯曲する隆起線が下垂する。8～10は、口縁部に1条の沈線により体部縄文と区画する無文帯を巡らすもの。後期（1～3・11～17）は、沈線による帯状の曲線や連続する刺突文、無文や隆起線を口縁部や頸部に施すものである。晩期（23）は、口縁部に羊歯状文を施すもの。2・18～22は、縄文や撚糸文、ハケ目状の条線文を地文とする推定後・晩期の粗製土器である。口唇部まで施文するもの（2・19・20）や沈線等による無文帯の区画がみとめられないもの（22）、口唇部に連続する斜めの沈線を施すもの（21）である。石器は、無茎の石鎌、石錐、範状石器、搔器、削器、凹石の器種がある。石匙は、未検出である。



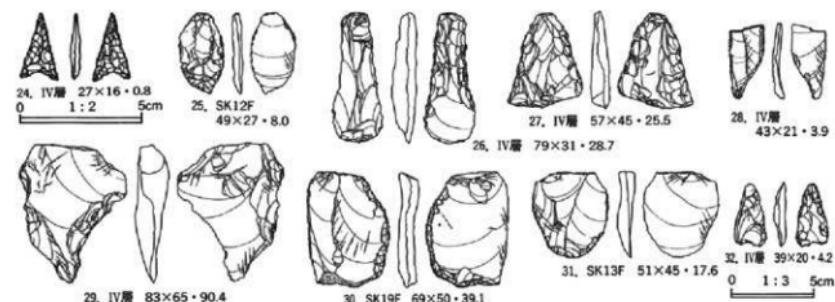
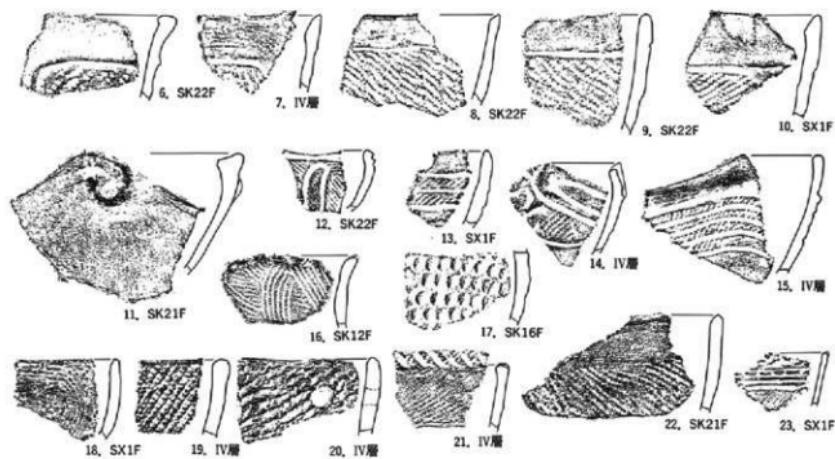
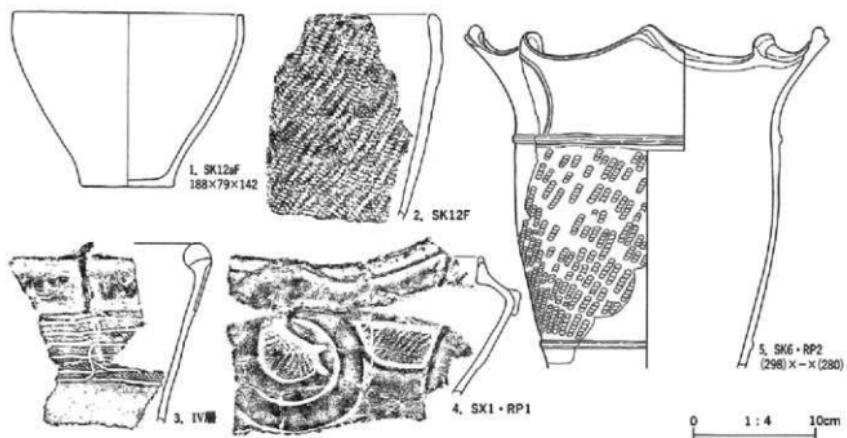
第6図 烏川4遺跡遺構配置図



- SK11**
1. 増褐色細砂質シルト (炭化物多量に含む)
2. 増褐色細砂 (炭化物・褐色多量に含む・V層薄含む)
3. 増褐色砂 (2層より暗色。褐多量に含む。しまりなし)
4. 黑色シルト (炭化物含む)
5. 増褐色細砂質シルト
6. 増褐色砂
7. 黄褐色砂 (炭化物・褐色細砂含む)
- SK12 + SK13**
1. 増褐色細砂質シルト (炭化物・V層小塊若干含む)
2. 増褐色細砂質シルト (炭化物・V層薄・褐色多量含む)
3. 增褐色細砂質シルト (褐色多量に含む。炭化物若干含む)
4. 黑色シルト (炭化物含む)
5. 増褐色細砂 (褐色多量に含む)
6. 増褐色細砂 (褐色多量に含む)
- SK15**
1. 増褐色細砂質シルト (炭化物・V層多量含む)
2. 増褐色細砂 (炭化物・褐色多量含む)
3. 增褐色細砂質シルト (褐色多量に含む。炭化物若干含む)
4. 黑色シルト (炭化物含む)
5. 増褐色細砂質シルト
6. 増褐色砂
7. 黄褐色砂 (炭化物含む)
- SK19**
1. 増褐色細砂 (炭化物含む)
2. 増褐色細砂質シルト (炭化物・V層薄含む)
3. 増褐色細砂 (炭化物含む)
4. 増褐色細砂 (褐色多量に含む)
5. 増褐色細砂 (褐色多量に含む)
6. 增褐色細砂 (褐色多量に含む)
7. 黑褐色シルト (炭化物含む)
8. 增褐色細砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
9. 黑褐色シルト (炭化物・褐色細砂含む)
10. 增褐色細砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
11. 增褐色細砂 (V層薄含む)
12. 增褐色細砂 (V層薄含む)

- SK15**
1. 増褐色細砂質シルト (炭化物・V層多量含む)
2. 増褐色細砂 (炭化物・V層薄含む)
3. 増褐色細砂 (炭化物多量に含む)
4. 増褐色細砂 (炭化物多量に含む)
5. 黑褐色シルト (炭化物・V層薄含む)
6. 增褐色細砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
7. 黄褐色砂 (炭化物・褐色細砂含む)
8. 黑褐色細砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
9. 增褐色細砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
10. 黑褐色シルト (炭化物・褐色細砂含む)
11. 增褐色細砂 (V層薄含む)
12. 増褐色細砂 (V層薄含む)
- SK12 + SK13**
1. 増褐色細砂 (炭化物・V層小塊含む)
2. 増褐色細砂 (炭化物・增褐色シルト褐色多量に含む)
3. 増褐色シルト (炭化物多量に含む)
4. 増褐色細砂質シルト (炭化物多量に含む)
5. 黑褐色シルト (炭化物・V層薄含む)
6. 増褐色砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
- SK15**
1. 増褐色細砂 (炭化物・V層小塊含む)
2. 増褐色細砂 (炭化物・增褐色シルト褐色多量に含む)
3. 増褐色シルト (炭化物多量に含む)
4. 増褐色細砂質シルト (炭化物多量に含む)
5. 黑褐色シルト (炭化物・V層薄含む)
6. 増褐色砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
- SK19**
1. 増褐色細砂 (炭化物含む)
2. 増褐色細砂 (炭化物・V層薄含む)
3. 増褐色細砂 (炭化物多量に含む)
4. 増褐色細砂 (褐色多量に含む)
5. 增褐色細砂 (褐色多量に含む)
6. 増褐色細砂 (褐色多量に含む)
7. 黑褐色シルト (炭化物含む)
8. 增褐色細砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
9. 黑褐色シルト (炭化物・褐色細砂含む)
10. 增褐色細砂 (V層多量に含む。炭化物含む)
11. 增褐色細砂 (V層薄含む)
12. 增褐色細砂 (V層薄含む)

第7図 烏川4遺跡検出遺構



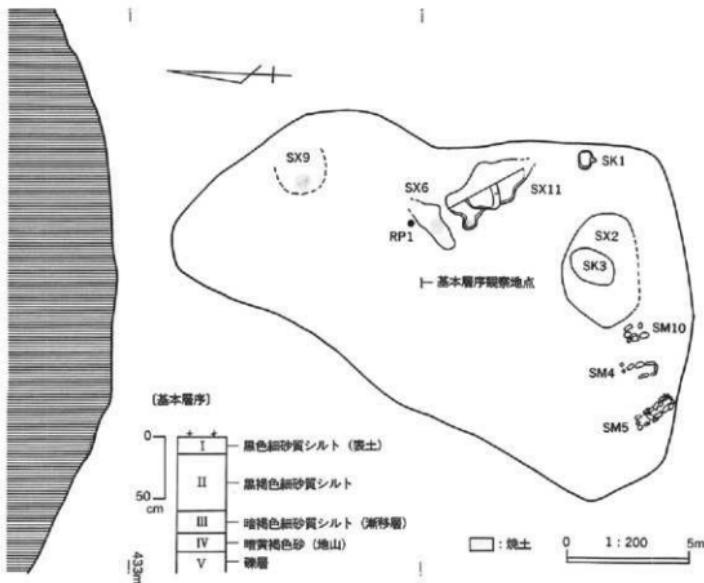
第8図 烏川4遺跡出土遺物

4 烏川5遺跡

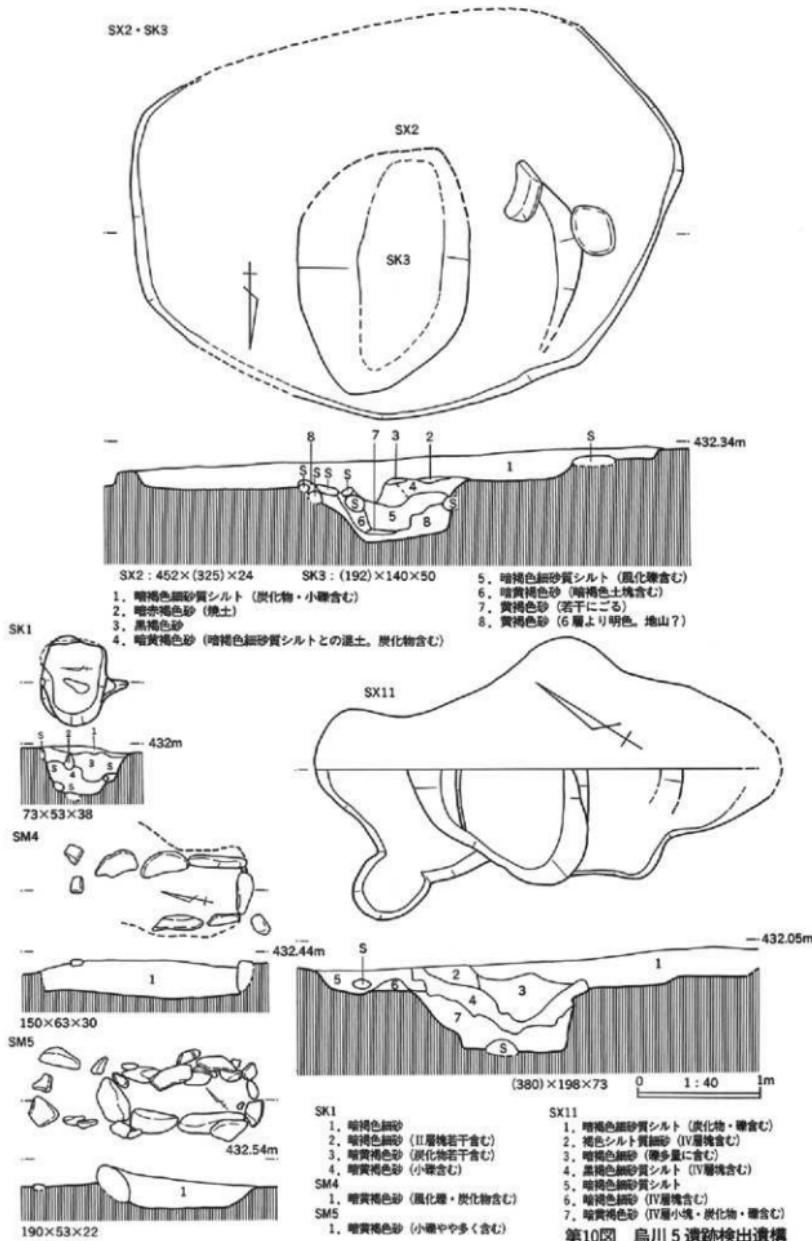
塚様の高まりを呈する調査区の南東側に遺構の分布がみとめられ、西側は岩盤の亀裂による自然断層で、南北に大きく異なる地質構造の場所である。

検出遺構（第9・10図、図版6）は、地山上面確認の土壤2基、石組遺構3基、SX4基である。土壤は、不整橢円形で直線的な掘り込みである。SK3は、SX1と重複位置にあり、土層断面からSK3→SX1の順序が考えられる。SM4・5・10は、南北の並列位置で、自然石を用いて箱形に組んでいる。碑群の中や近くに設置され、当初判然としなかったが、SM5の規則的な配石から確認できたものである。SM4・10は、部分的な確認である。SM5は、検出前の過程で偏平な石を振り上げた状況から、蓋石が置かれていた可能性がある。また、北寄りに小区画部分がみとめられることから、2つの重複遺構が考えられる。出土遺物は、SM5の1点（第11図、図版7）である。

出土遺物（第11・12図、図版6～8）は、整理箱10箱である。土器は、文様の特徴から中期後葉、第12図（1～14）、後期（15～26）に分けられる。前者は、隆起線による渦巻文、隆起線や沈線による曲線や橢円等の無文帯区画に充填繩文を施す土器群である。後者は、曲線や平行・格子状の沈線文、縦長の貼瘤、節の細かい羽状繩文、横位や斜位の条線文を地文とする土器群である。円盤状土製品（32・33）は、体部破片を転用したものである。石器は、無茎の石鏃、横長・縦長の石匙、鎧状石器、搔器、磨製石斧、凹石、磨石、石皿、石棒の器種がある。

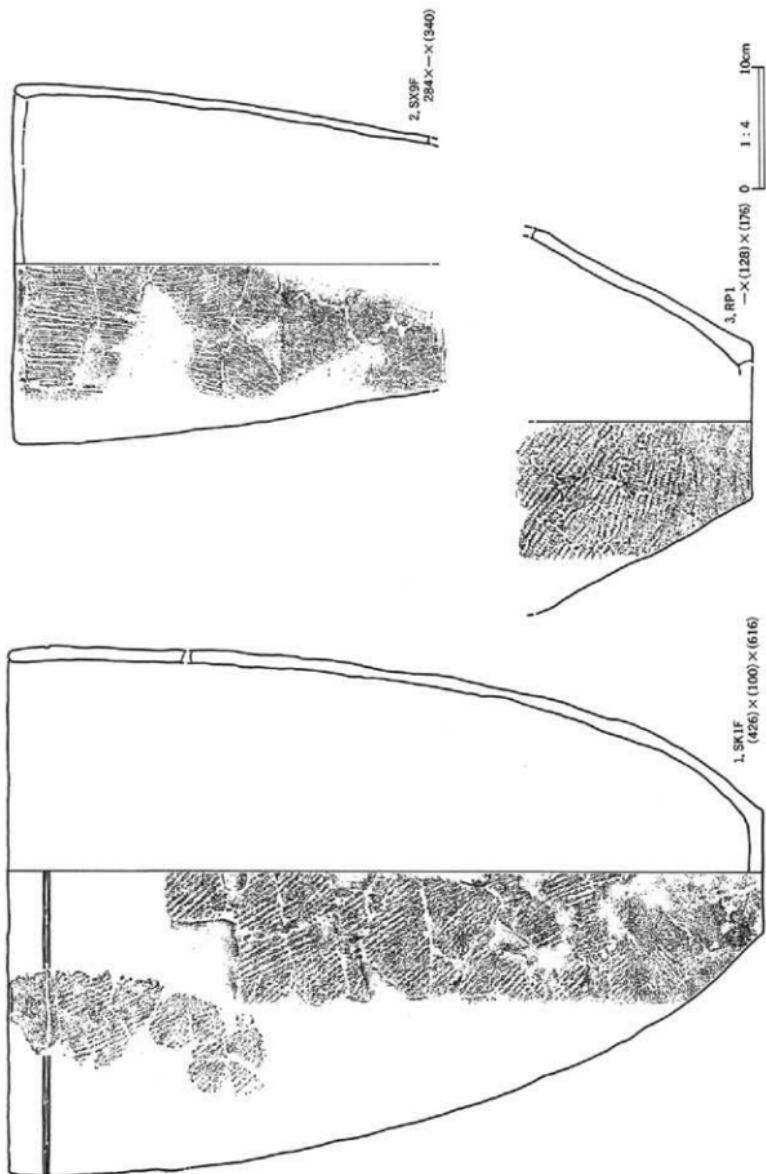


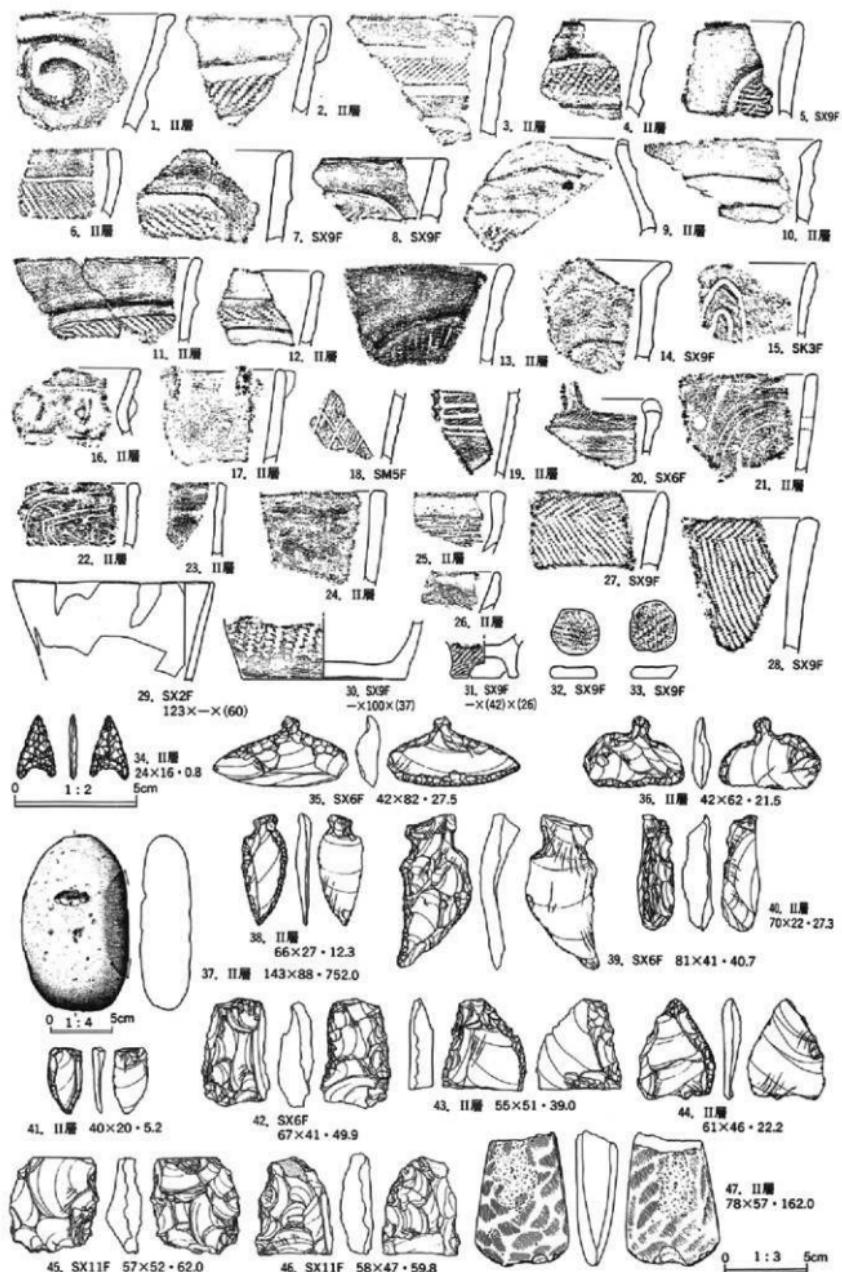
第9図 烏川5遺跡遺構配置図



第10図 烏川 5 遺跡検出構

第11図 鳥川5遺跡出土繩文土器





第12図 烏川5遺跡出土縄文土器・土製品・石器

第V章　まとめ

今回の調査は、平成4年度綱木川ダム建設事業にかかる「鳥川遺跡群——鳥川2～5遺跡——」の緊急発掘調査報告書である。調査期間は、平成4年4月13日から同5月29日までの延べ29日間である。調査面積は、4つの遺跡を合わせ1,091m²である。

鳥川2遺跡は、土壤、ピットが尾根筋に分布する状況で、範囲も東西30m・南北16mの区域である。しかし、出土遺物は、少量ながら磨石や石皿があり、当時の集落生活に起因するものが含まれる。土壤の中で底面に小ピットを有するものやTピット状のものは、その断面形態から落とし穴と考えられる。時期は、SK6については出土遺物の特徴から大木2b式併行の所産と推定できる。また、石器の中で地山面の精査段階で出土した縦長の剝片やポイント基部と思われる一群は、旧石器の特徴が伺えるものである。本遺跡は、出土遺物の内容や立地場所が尾根の狭い平坦部であること等も考慮に入れると、キャンプサイトというよりも谷あいに営まれた小集団の集落跡と考えられる。

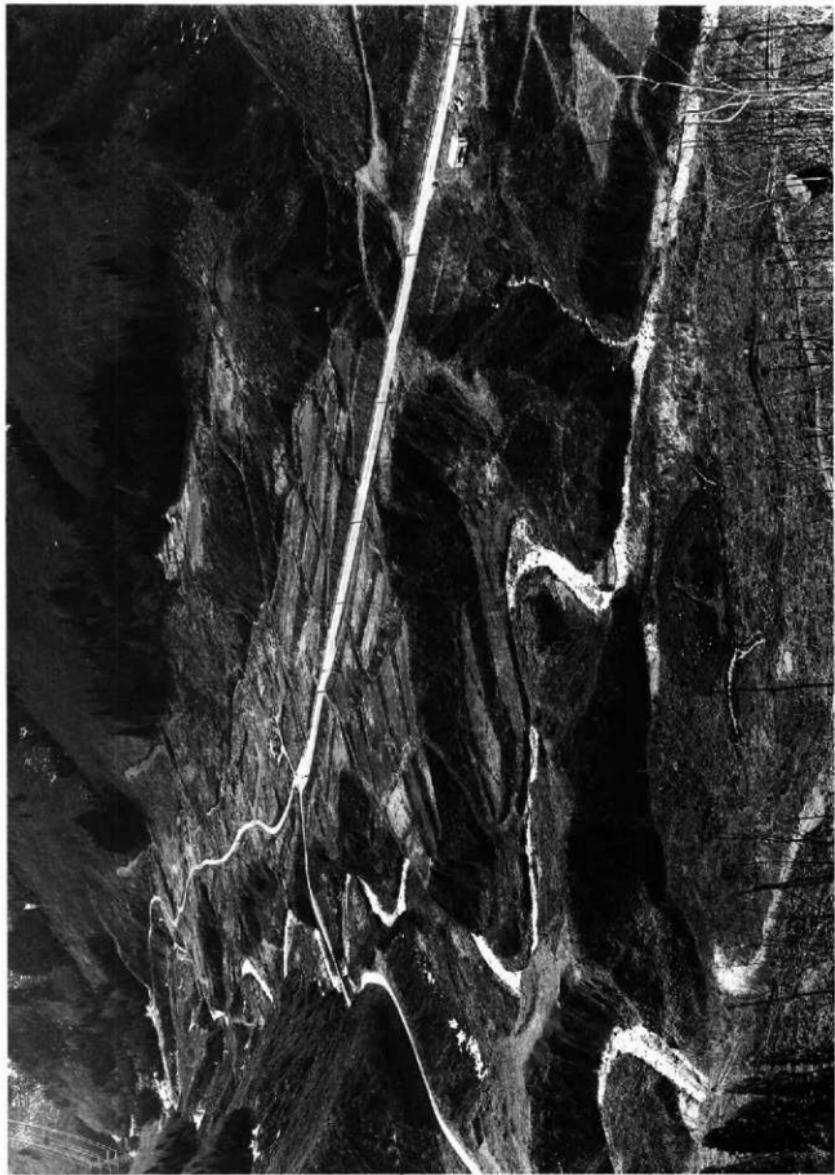
鳥川3遺跡は、土壤、ピットの分布が調査区の南寄りに検出された。SK4～6は表土層下部から掘り込みが行われ、覆土の状態・槍の痕跡や煙管・古錢・骨片の出土、さらに地区の方の話の内容から墓壙と考えられる。時期は、掘り込みの上部が表土で擾乱を受け、SK4・5出土の古錢が寛永通寶であることから近世以降の所産である。縄文時代の遺物も土壤やピットからみとめられたが、地山の層は風化跡が表面に露呈し、包含層から地山上面まで削平された状況である。出土土器は、縄文時代後期の特徴がみとめられる。

鳥川4遺跡は、綱木川左岸沿いの段丘面縁辺から土壤、ピットの重複遺構群が検出できた。時期は、出土土器から縄文時代中期末から後期の所産と考えられる。その分布は、礫群間に地山面が残る範囲である。住居跡は、SX1を想定した柱穴やプランの確認まではできなかった。但し、プラスコ状土壤の分布や柱穴の並び、焼土検出は、住居跡、貯蔵穴といった集落構造の一部を示すものであり、山間部の河川沿いに展開した縄文時代の集落のひとつの特徴といえよう。遺構群の東側は、プランのすぐ近くまで段丘の縁辺部が迫り、段丘崖の侵食が進んだことを考慮すると、当時の集落範囲はもう少し東側に広がりをもっていたことが推定される。

鳥川5遺跡は、土壤、石組遺構の分布が検出された。石組は、SM5から長方形の箱状で、ほぼ並列する配置である。その特徴から石棺墓と考えられ、まとまって分布することや、立地場所が通称「丸山」という塚様の地名であることは、この地形的な高まりが当時の墓域であった可能性が考えられる。時期は、SM5及び周辺の出土土器から縄文時代後期の所産と考えられる。

鳥川遺跡群の規模は、調査範囲から見て比較的小さいが、立地環境によるものか、時期的なものによるものか検討を要するが、本地域は河川沿いの細長く延びる谷あいに河岸段丘が形成された地形であり、さらに、旧石器時代から縄文時代までの多岐にわたる遺跡の分布がみとめられることは、山・河川から資源をもたらすこの自然環境が集落の立地要因であり、それに起因する部分が大きいと考えられる。

図 版



鳥川流域群全景（北東から）

図版2



遺跡近景（西から）



SK 6（南東から）



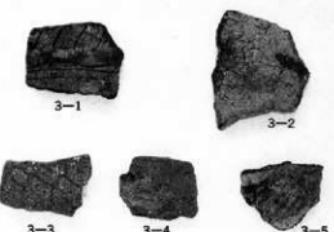
SK 3（南から）



T 1（西から）



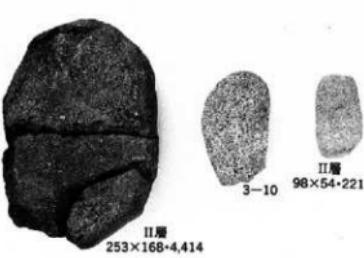
調査区完掘状況（南西から）



縄文土器（1/3）



剥片石器（1/3）



礫石器（1/6）

図版3



遺跡近景（南から）



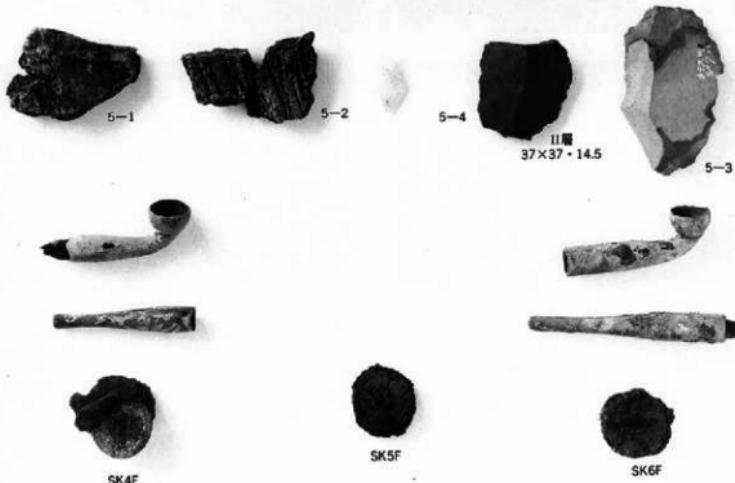
S X 7（北東から）



SK 6（北から）



調査区東半部発掘状況（南から）



出土遺物（1/2）

図版4



遺跡近景（北東から）



SK 19（南西から）



SK 11（南から）



SK 12・SK 13（北東から）



SK 6・RP 2出土状況（南から）



SX 1 土層断面（北から）



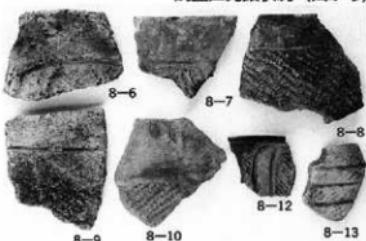
作業状況（北から）



調査区完掘状況（西から）



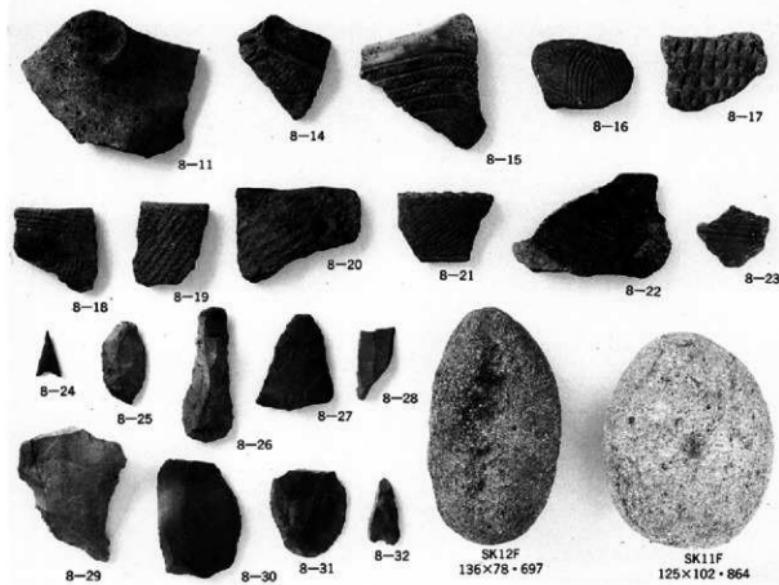
縄文土器1 (1/4)



縄文土器2 (1/3)



縄文土器3 (1/3)



縄文土器・石器 (1/3)

図版 6



遺跡近景（西から）



東西トレント土層断面（北西から）



S X 2・S K 3（西から）



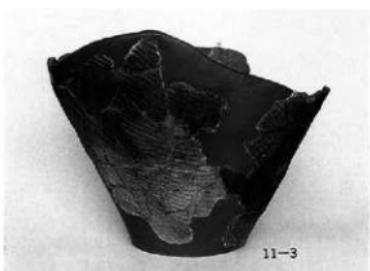
S M 5（西から）



S M 4（北から）



調査区完掘状況（北から）



縄文土器 1 (1/5)



縄文土器 2 (1/3)

図版 7



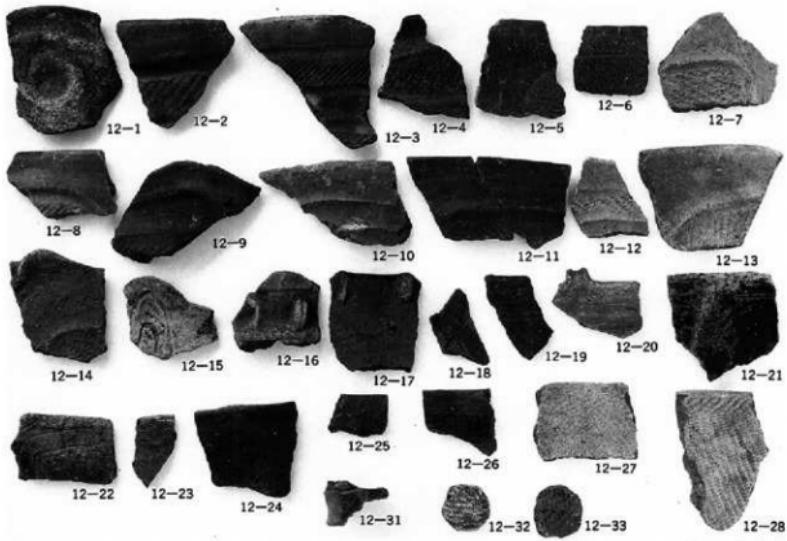
11-1



11-2

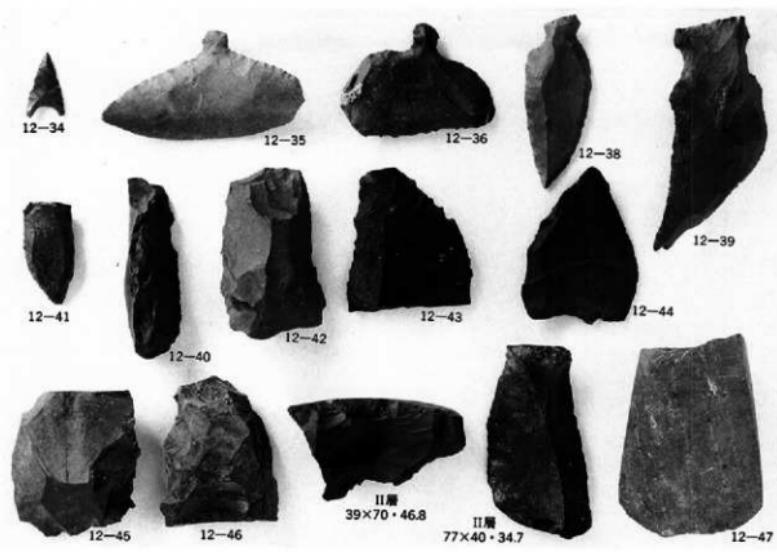
縄文土器 3 (1/6)

縄文土器 4 (1/4)

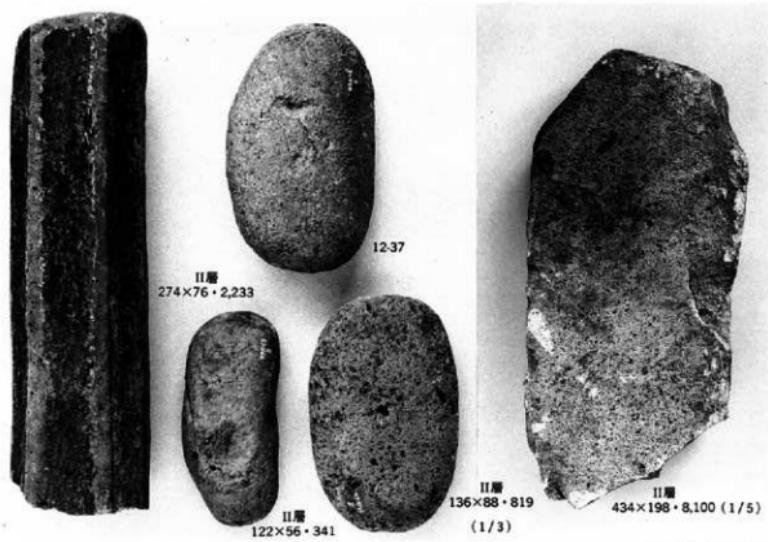


縄文土器・土製品 (1/3)

図版 8



剥片石器・磨製石斧 (1/2)



砾石器・石製品

山形県埋蔵文化財調査報告書第190集

からす がわ
鳥川遺跡群
発掘調査報告書

平成5年3月25日 発行

発行 山形県教育委員会
印刷 梓大風印刷
